

戦前における岸田日出刀設計のゴルフ場クラブハウスの意匠的特徴について

The Design Features of the Hideto Kishida-Designed Clubhouses on Golf Courses in the Pre-War Era

勝原基貴³, ○赤根広樹¹, 大川三雄²Motoki Katsuhara³, *Hiroki Akane¹, Mitsuo Ohkawa²

This paper examines the design features of the clubhouses that Hideto Kishida (1899-1966) designed for golf courses before the war, based on the discourses and schematic drawings. Kishida maintained that his ideal clubhouse on a golf course would bear the architectural features of a wooden, Japanese folk dwelling. The expression of the folk dwelling-like features in the clubhouses not only considered its balance with the golf course's scenery but also epitomized Kishida's architectural philosophy that the locality needed to be blended into the uniqueness of an architectural structure.

1. はじめに

都市計画家の笠原敏郎, 福田重義, 井坂富士雄の三氏に手解きを受けて以来, 岸田日出刀が生涯にわたり親しんだスポーツにゴルフがある¹⁾。当時, 春夏二回行われていた建築家のゴルフ大会では, 横川民輔寄贈の優勝杯をめぐる毎回数名の参加があり, 学生の間にもゴルフ部ができるなど, 徐々にゴルフの大衆化が進んだ時期であった。多種多芸で囲碁やテニスなどもアマチュアの域を超えた腕前を持っていた岸田は, ゴルフでも日本選手権競技に出場するほどの実力をもった人物であった。戦後は, 建設大臣杯をかけて毎年行われた建設業界人のゴルフ大会の委員を務める²⁾など, ゴルフへの関心が強かった³⁾。戦時体制下の中断期を除き, 計画案を含む生涯で十件のゴルフ場クラブハウスを設計している。(表 1)

本稿では, これまであまり顧みられなかった岸田の建築家としての活動とその設計作品の特質を明らかにする一環として, 雑誌等の言説と現存図面, 写真との検証が可能な, 戦前に岸田が設計したゴルフ場クラブハウス(学士会, 山中, 六実, 日立)の意匠的特徴を明らかにすることを目的とする。

戦前	1931	S6	学士会ゴルフクラブハウス
	1934	S9	山中カントリークラブハウス
	1934	S9	武蔵野カントリークラブハウス(六実)
	1936	S11	日立カントリークラブ
戦後	1956	S31	湯河原カントリークラブ
	1957	S32	湯本人幡町ゴルフコース
	1959	S34	唐沢カントリークラブハウス
	1960	S35	戸田カントリークラブハウス
	1963	S38	嵐山カントリークラブ
	1964	S39	東陽城カントリークラブハウス計画

表 1 岸田が設計したゴルフ場のクラブハウス

資料には, 東京都公文書館(内田祥三文庫)所蔵の図面資料や仕様書, 雑誌等の文献資料を用いた。

2. ゴルフ場クラブハウスの意匠に関する岸田の言説

岸田は, 雑誌『国際建築』(昭和 9 年 6 月号)に「クラブハウスのデザイン」と題した記事を寄せている。この中で, 日本のクラブハウスの意匠について,

- ① 国際建築風のもの
- ② スパニッシュ風のもの
- ③ 普通の洋風のもの
- ④ 日本民家風のもの

の 4 つの形式が見られるとし, ゴルフ場のクラブハウスに適切な意匠は, ①と④であると述べている。更に①(国際建築風のもの)は鉄筋コンクリート造である場合に良い形式であり, ゴルフ場のクラブハウスは市街地の建築物ではなく火災等類焼の危険性がほとんどない上, 大体ヒュッテの場合と同じであることから, 日本民家風の木造(④)とすることが好ましいと述べている。また, 「ゴルフというものの性質やゴルフコースの風致といふやうな方面から考えて, その土地々々の郷土色をよく出した所謂ひなびたものがよいと思ふ。」と述べ, 暖房といった設備も近代的な温水暖房やマントルピースのものより, 田舎風のいろいろの方が好ましいとしている。



写真1 霞ヶ関 C.C.



写真2 我孫子 C.C.

岸田は, A.レーモンドの建築作品にも一定の評価を示している。藤沢カントリー倶楽部(昭和 7 年)はスパニッシュ風の建物であるが, レーモンドは我孫子や相模で民家建築の特徴を活かしたクラブハウスを設計している。「レーモンドは優秀な建築家であるばか

りでなく、更に長年クラブライフを経験したよいゴルファーである。」と述べ、ゴルフに精通した人物の配置計画であると評価している。

また、霞ヶ関カンツリークラブ（昭和 4 年）の建物はレーモンドの設計ではないが、繰り返し触れており、「民家風の特徴を巧みに按配した佳作であり、日本の景色にマッチする。」としている^[4]。

部屋の配置や仕切りについては、「クラブハウス等では特別に嚴重に部屋を仕切るといふことはよいことではなく、実際使用上からはがらんとしたやうな配置の方が好ましいものと思ふ。」と述べている。

3. 戦前に岸田が設計したゴルフ場クラブハウスの特徴

戦前の作品は、いずれも木造で、言説での主張の通り、民家建築の特徴を活かした意匠となっている。屋根の仕上げはそれぞれで異なり、学士会、山中、六実では、越屋根（煙出し檜）がみられ、山中や日立の屋根には千木がある。民家建築、神社建築等の形式と相通する点がみられる。六実は「農家風の意匠」で、テラス部はこけら葺き、屋根は茅葺で軒などを部分的に瓦葺にするなどの工夫もみられる。山中と六実では、化粧屋根裏天井とし、構造体を露わにしている。

クラブハウスの建物は、敷地の傾斜による高低差を利用し、山中や日立ではゴルフコースが一望できるように、板張りのテラスが設けられている。いずれのクラブハウスも各居室を細かく壁で区切ることなく、ガラス戸を多用し、開放的で、六実と日立では、泉池を設け、内外部の空間に連続性を持たせている。

4. まとめと考察

岸田は、ゴルフ場では、木造で日本の民家建築の特徴を活かしたクラブハウスを理想としていた。

岸田は、昭和 11 年に民家建築に対する感想を残している^[5]。民家を造るのは建築家ではなく大工であ





り、「特別な意匠をふるうわけではなく謙譲な素直な気持ちでその土地々々の昔からの仕きたりに忠実に従っている。」と述べ、「都会の建築によくみる焦燥やこれ見よがしの作為がない。」と民家建築を評価している。また、「民芸建築とは建築におけるげてもものことであろう。建築におけるげてもものは何かと考え廻したら農民建築がこれに該当する。」^[6]と述べている。

民家建築を志向した背景には、霞ヶ関 CC での民家風クラブハウスの体験だけでなく、「モダニズムと伝統をどう建築に織り込むか」という課題が考えられる。岸田は、「建築の特殊性がローカリティーに基因すると考へる以上、時代が如何に変化しても、かかるローカリティーから起った正しい伝統といふものは、建築から決してなくなる。」と述べている^[7]。「建築が次第にインターナショナルの特徴と性質をもち、国際建築というような名で呼ばれる傾向がみられる」ことは認めているが、「土地々々の人の生活に起因する建築の特殊性」を無視した意匠には否定的であった。

ゴルフ場クラブハウスの意匠に、民家建築の特徴を抜きがたく表出しているのは、ゴルフ場の風致との関係だけでなく、ローカリティーによる建築の特殊性を重要視していた岸田の建築観の表れと考えられる。

^[1] 昭和 9 年に書かれた文献に「7 年前に」とあるので、28 歳頃に学生時代から続けていたテニスからゴルフに転向する。
^[2] 主催者の運営方法に不服を示し、途中で委員は辞退している。
^[3] 東京五輪の施設委員としてベルリンに視察に行った際も、現地で開催された芸術競技の建築部門に自らが設計したゴルフ場の写真と図面をまとめた「**Golfing in Japan**」を出品している。
^[4] 『技術日本』といった雑誌にゴルフ講座を連載しており、そのなかで、霞ヶ関カンツリークラブの建物に言及している。
^[5] 岸田日出刀「日本の民家」(『ホーム・ライフ』、1936 年 3 月号)
^[6] 「手工的な民芸はよいが機械的工作から成る工芸品は駄目だといふのは時代を無視した錯誤」であり、「民芸は趣味としてそのよい点を認め、その発展をはかるといふのなら筋も立つ。」とし、機械的工作からなる工芸品にも理解を示している。
^[7] 岸田日出刀「建築における特殊性：モダニズムと伝統の交流」(『セルパン』、昭和 10 年 3 月号)
 写真出典：写真 1 『霞ヶ関 75 年史』、写真 2 『世界ゴルフ大観』

表 2 戦前に岸田が設計したゴルフ場クラブハウス

学士会 1931 (S6)	山中 1934 (S9)	六実 1934 (S9)	日立 1936 (S11)
			

学士会:『建築世界』、山中:『建築世界』(昭和11年2月号)、六実:東京都公文書館所蔵、日立:『東洋建築』(昭和13年1月号)